



1週間でのべ1700人が利用しました。連日開店前から長蛇の列ができる大盛況で

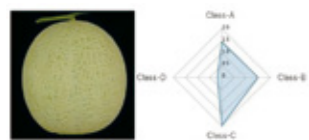
### 学生応援！ 「100円夕食プロジェクト」を実施

「物価高騰などの影響を受けている学生を元気づけたい」との想いから、卒業生や保護者、企業などから「静岡大学未来創成基金」に寄せられた寄附金を活用し、1月30日～2月3日、学食の夕食メニューを100円で提供しました。寄附企業などの「応援メッセージ」に目を通した学生たちは、トレイシートのメッセージ欄に「コロナ禍で苦労がある中、励まされました」「最近電気代が上がって生活が苦しかった。本当に感謝しかありません」など感謝の言葉をつづりました。

## 研究 PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します (2022年8月～2023年2月)

### メロンの網目の品質を認識可能な等級判定AIの研究開発に成功



情報学部/グリーン科学技術研究所の峰野研究室では、株式会社大和コンピューターとの共同研究により、温室メロンの網目の品質を認識可能な等級判定AIの研究開発に成功しました。AIを活用することで一貫性を持った等級判定と出荷作業の効率化を図り、生産者の負荷軽減や新規就農者への等級判定技術の継承に貢献し、AIとの協働による持続可能な地域社会の実現を目指していきます。

- 防災総合センター/理学部・北村晃寿 「静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土砂災害現場の地質調査に関する研究報告」
- 農学部・河岸洋和 「静大発・世界初の化粧品原料『レピスタ®』、誕生一皮膚バリア機能を改善するエイジングケア成分」
- 創造科学技術大学院・小野公輔 「簡便なアナターゼ型酸化チタンのエピタキシャル薄膜成長法の開発」
- 工学部・守田智 「全国規模の性接触ネットワークの解析」
- グリーン科学技術研究所/農学部・大西利幸 「植物間コミュニケーションによって植物が将来起こり得る被害から身を守る仕組みを解明」
- 理学部・近田拓末 「ガンマ線の照射によって室温下でセラミックス被覆中の水素が移動することを発見」
- 情報学部/電子工学研究所・増澤智昭 「炭素原子膜グラフェンに含まれる微量元素量の計測に成功」
- 工学部・織田ゆかり 「高分子鎖の新しい吸着機構を発見」
- 理学部・広部大地 「磁石で右と左を区別することに成功」
- 電子工学研究所/工学部・小野行徳/堀匡寛 「世界初、超伝導磁束量子ビットを応用した磁場センサで神経細胞中の鉄イオン検出に成功」
- 農学部・長尾遼 「シアノバクテリアの光化学系I単量体IsiA超複合体の立体構造解明」

### アンケートにご協力ください

静岡大学広報誌「SUCCESS」vol.29の誌面に関するWEBアンケートにご協力ください。抽選で20名様に静岡大学オリジナル紙製クリアファイルをプレゼント！当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



左記QRコードによりアクセスいただき、WEBにてご回答ください。  
応募締切：2023年6月30日(金)

### 編集後記

今号の特集は、浜松キャンパス100周年を記念し国立科学博物館で開催された共同企画展です。今日では当たり前に見ることができるようになったテレビについて、そのはじまりから最新技術まで約100年に及ぶテレビ技術の進歩をみなさまに感じていただけたら嬉しいです。



## 全国大会で大躍進！ 静大の部活動・サークル

### ダンス部史上初！ 全日本高校・大学ダンスフェスティバルで特別賞を受賞

創作ダンス唯一の全国大会で、ダンス部創部以来初の特別賞を受賞しました。作品「空蟬(うつせみ) -生きた象(かたち)-」のテーマは「生きる、それは変化し続けること」。踊りでどう表現できるか、半年間追求して創作し、作品名にふさわしい斬新な動きが高く評価されました。



部員全員が一丸となって納得できる踊りを披露しました(2022年8月)

### 吹奏楽団 全日本吹奏楽コンクールにて銀賞受賞！

福岡県・北九州ソレイユホールで開催された第70回全日本吹奏楽コンクールで、昨年に続き、銀賞を受賞しました。1965年に創設された歴史ある楽団で、15回連続出場となった全国大会で、日頃より応援してくれる方々や先輩方の想いを胸に、静大サウンドを会場中に響かせました。



全員で顔晴(がんばり)り切れました！(2022年10月)

# SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

Shizuoka University  
Current affairs &  
Connective paper for  
Every graduate  
Student &  
Staff

特集

## 静岡大学・国立科学博物館共同企画展 「テレビジョン技術のはじまりと発展」

／地域に飛び出す静大生！フィールドワーク特集



Spring 2023



チーム対抗ロボットコンテストに向けた製作実習 関連記事は1ページへ！



# 静岡大学・国立科学博物館共同企画展 ～テレビジョン技術のはじまりと発展～



## “日本のテレビの父” 高柳健次郎

1920年代、「テレビ」の実用化に向けたさまざまなアイデアが各国で提案され、研究が行われていました。それらの情報にふれ、日本で最初にテレビジョン技術の研究を始めた人が、浜松高等工業学校(現:静岡大学工学部)の高柳健次郎です。



高柳健次郎

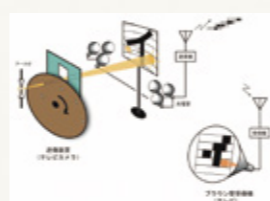
1926(昭和元)年12月25日、高柳は世界で初めて、ブラウン管を用いてカタカナの「イ」の文字を映し出すことに成功、これがテレビの誕生の瞬間でした。



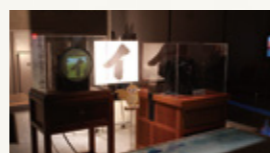
撮像実験に使用された「イ」の字の雲母板

## ニポー円板を用いた 高柳式テレビジョン装置

アーク灯から発する強い光を、円板に開いている孔を通して、暗い所に置かれた被写体の「イ」の字に当てます。孔は螺旋状に開いているので、円板の回転に伴って、光は「イ」の字の上を左から右へ、一段下がってまた左から右へ照らしていきます。被写体の両側には、光電管が6本あり、反射した光を電気に変え、映像信号として送信機に送ることで受像機に映し出されます。



高柳式テレビジョン装置のスキャンの原理



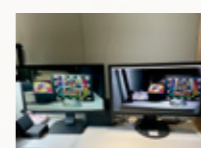
こちらの装置は国立科学博物館の常設展でご覧になれます

## 色とテレビ ～色の再現とテレビ技術～

今日、テレビの活用が広がるにつれて、エンターテインメントのみでなく、遠隔医療やテレビショッピングなどの場面でも色が重要な情報となってきています。テレビで色を再現するには赤、緑、青の「光の三原色」を混色して実現しています。最新の4K/8Kで使われているBT.2020という規格は人間の目が基準となっており、人が見る反射光の99%以上を再現できるまでに広がり、HDRなどの新規規格とともに精度の高い画像を得ることができるようになりました。



光の三原色



再現される色の違いを体験

## 8K145インチ 大型モニター上映

本学所有の145インチ8Kスーパーハイビジョンテレビを展示し、8Kカメラで撮影された静岡大学の風景を超高精細映像で上映しました。豊かな自然に恵まれた静岡キャンパス、ものづくりの中心地に所在する浜松キャンパス、時刻によって様々な表情を見せる両キャンパスの様子を多くの来館者にお楽しみいただきました。



迫力ある映像で静岡大学を紹介



32型のテレビの映像と1画素の大きさが同じ場合の画面サイズ例

これらの一部は高柳記念未来技術創造館でご覧いただけます。

## 学長メッセージ

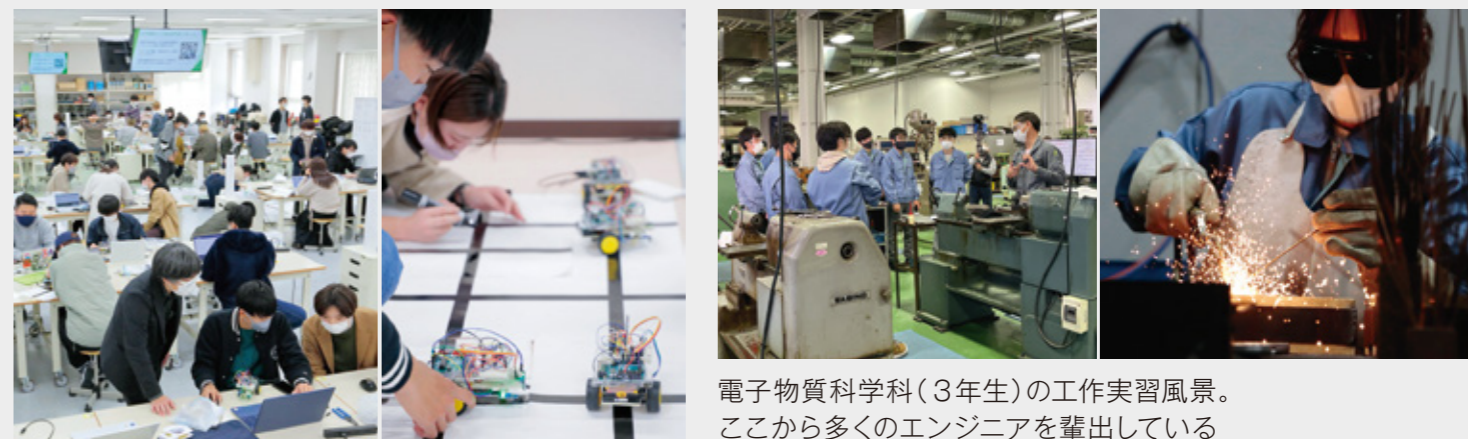
昨年静岡大学浜松キャンパスは、前身である浜松高等工業学校設立の公布から100周年を迎えました。今回100周年記念事業の一環として開催した共同企画展では、本学で培われた技術の結晶とも言えるテレビについて、その原理から研究開発の歴史、先端研究の一例までを紹介しました。現在、「テレビ」は長足の進歩を遂げ、4Kや8Kといった超高精細映像を実現するまでに至っており、本学の電子工学研究所がその研究開発を主導しています。本学は、これからも世界をリードする独創的な研究を推進し、国際社会や地域社会の発展に貢献してまいります。

## 受け継がれる「ものづくり精神」

### チーム対抗ロボットコンテストに向けた製作実習

工学部の1年生全員を対象に、企画・設計・材料調達・製作・性能試験・改良等、ひとつの作品が完成するまでのプロセスを学ぶものづくり実習を行っています。チーム対抗のロボットコンテストに向け、アイデアを競い合うとともに、チームとしての技術力やリーダーシップ・役割分担など技術者に必要な組織としての力とチームの中で自己を実現する能力を養っています。

工学部は、ものづくりを基盤とした「基礎力と実践力を備えた人材育成」「地域とともに世界に羽ばたく研究」「地域社会・産業への貢献」を通し、社会から期待される学部を目指しています。



電子物質科学科(3年生)の工作実習風景。ここから多くのエンジニアを輩出している

港全体から避難する方向を考える



リアリティー)の活用、漁業やダイビングとジオパークの視点(ウオジオ)、大学生目線での健康と教養のクオアルト×ジオツアーなど、プログラムの開発とその教育普及に取り組んでいます。

## 伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策、持続可能な開発と教育(SDGs/ESD)を推進

伊豆半島は、2000万年来の火山活動や地殻変動の生んだ豊かな自然と、そこに育まれた生態系・地域社会の歴史・特産物・文化などが高く評価され、2018年4月に国内9つめのユネスコ世界ジオパークの認定を受け、今後一層の活動推進が期待されています。

フィールドワークは、2つのグループに分かれ、「保全と防災グループ」では、ジオサイト保全のための環境負荷センサーの開発、地域住民による防災まち歩きと連動した情報共有ウェブサイトの開発と改良、新型コロナウイルス対策用のオンライン版も含めたジオツアーや防災まち歩きの開発・検証等を行っています。

「教育グループ」では、ジオパークでの教育活動の幅を広げるために、SDGsを軸としながら、VR(バーチャル



スマートフォンで今いる場所を確認



松崎まち灯り(伊那下神社)



丹那断層をジオラマで学ぶ

施設の方とおもしろ自転車に乗車



## 地域に飛び出す静大生! / フィールドワーク特集



「地域に貢献できる人材を育成」



松ぼっくり玉入れ



チョークアート



多くの町民とNEWHAKUを作成

静岡大学では、感性豊かな知性を育てるために、フィールドワーク、ものづくり体験、地域づくり、子どもと共に育ちあえる学校や地域に接する機会を活用し、地域・社会の様々な分野でリーダーとして発展に貢献できる人材の育成に力を入れています。

学生たちは、静岡県内の中山間地域から街中まで、さまざまな課題を抱える各地域をフィールドとし、多様な人・ものとかかわりながら、自らの専門分野を生かし、異なる分野の仲間と協同しながら課題解決に取り組んでいます。時には失敗もありますが、地域で暮らす人々に向き合い、体験したことから多くの学びを得ています。



竹水鉄砲



写真フレーム



新一年生を交えた青空ミーティング



稲取への移住者・リピーターとの交流会

とうもんの里



## とうもんの里

子どもたちを呼び込むための環境づくり  
 辺り一面に田園風景が広がり、四季折々の美しい情景が見られる田園空間博物館南遠州とうもんの里総合案内所。NPO法人とうもんの会が、地域の自然、農業、

歴史や伝統文化を守り、継承するために運営しています。農産物を直売する「朝採り昼市」、農業体験、食体験、歴史自然観察などのプログラムも行い、地域住民の交流の場にもなっています。

静岡大学の学生たちによるフィールドワークでは、遊具の設置や池の整備、看板の設置など設備の改良を行うとともに、一人でも多くの人に利用してもらおうきっかけとして、親子で参加できるイベントを企画しています。

例えば、キッズフェスでは「全身で自然を感じよう!!」をテーマに、イベントの企画・準備、運営などを行いました。植物を使った工作やゲームで、自然と触れ合いながら自由に遊んだり、松ぼっくり玉入れやチョークアート、竹水鉄砲を使って自然の中で体を動かしたり、というイベントを通して、多くの学びや気づきを得ることができました。

## 地域の魅力の再発見と発信への取り組み ～地域の人と外部の人との架け橋として～

東伊豆町は、海沿いに立ち並ぶ旅館で温泉や景色を楽しもうと、多くの観光客が訪れる町です。しかし、どこに立ち寄ることもなく、旅館に直行してしまうため、まちの賑わいがなくなり、空き家や空き店舗が増え、課題になっています。

そこで、東伊豆町フィールドワークでは、稲取地区で「人の行き交う稲取」の実現を目指したまち歩きのイベントを企画、実行しました。来訪者が旅館や温泉以外の魅力に気づくだけでなく、町民もまちの魅力を再発見し、自ら外に発信する活動につながっています。

2022年度は港の朝市会場の外壁のパネルアートを新調するプロジェクト“NEWHAKU”を実施しました。

NEWHAKU設置完了



東伊豆をイメージしたアート作品で、掲示板や情報交換用ボックスを備え、来訪者と町民をつなぐコミュニケーションツールとなっており、稲取の小中高校生をはじめ、多くの町民の方々にご協力いただき、交流を深めることができました。

# 研究最前線 静岡大学の若手研究者たち

芸術文化の継承と発展、  
人類の「知」に貢献する



文字として残された古文書や、非文字として語られる慣習や人々の知識など、中世や近世に遡る歴史的な情報が、現代の地域社会に残されていることは少なくありません。人々の生きた歴史として地域社会の過去を究明し、歴史・文化資源の情報を記録して未来に伝達していくことが私の課題です。

地域の視点から中世社会の実像を描き出すことを課題とし、村落、民衆、生業、流通・交通、都市・市場・港湾、金融などがどのように結びつきながら社会を構成していたのかを研究しています。

古文書と呼ばれる文献史料を読み解くとともに、現地を歩くことに重点を置き、現代から遡って数百年前の中世社会に生きた人々の姿を描き出したいと考えています。旧家や公民館には、近世・近代の古文書が膨大に残されており、かつての農業・漁業・林業・塩業など人々の暮らしを雄弁に語るものも多くあります。また、戦前から終戦直後に生まれた人から、過疎化・限界集落化以前の地域の景観や生業を伺うこともあります。

こうした現代のオーラルな情報を、古文書という文字の情報に重ね合わせることで、よりリアルな地域の歴史を描き出すことが可能となります。

## 地域の視点からみた 中世社会の解明

貴田 潔  
KIDA Kiyoshi

人文社会科学部 社会学科 准教授



教員ウェブサイト



近年、環境汚染が問題となっているプラスチックも、実は人間が作り出した固体です。本研究では、そこに着目し、人工的にプラスチック分解酵素を進化させることで、自然のセルロースやキチンを分解代謝する循環型システムの構築を目指しています。

木材やエビ、カニおよび昆虫の殻は、非常に丈夫です。セルロースやキチンなどの糖質を含むため、分子鎖同士が強固にくっ付いた結晶構造となって物理的強度を発揮しています。

一方で、自然界には糖質を栄養源として生育するカビやキノコ、バクテリアが存在し、糖質結晶を分子鎖の端から順番に分解していく酵素分子を生産しています。

そこで、酵素分子を蛍光色素や金属ナノ粒子で標識し、1分子ずつ、動き方を解析し、効率的な結晶分解の仕組みの解明に取り組んでいるところです。

## 固体の上で働く酵素を 理解し改良する

中村 彰彦  
NAKAMURA Akihiko

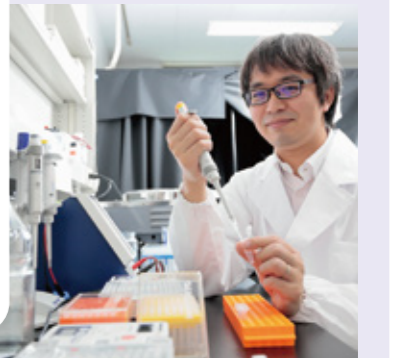
農学部 応用生命科学科 准教授



教員ウェブサイト



酵素の大きさはナノレベルであり、水分子の衝突が無視できないスケールです。イメージとしては常に暴風雨の中にいるような状態ですが、そんな中でも一方向に運動できる酵素はとてもよくできていて面白い物質です。その仕組みを理解して自由に作れるようになれば、さまざまなナノデバイスが作れるのではないかと考えています。



誤答は避けたいものかもしれませんが、授業をより良くするためには貴重なヒントになります。回答から学習者1人ひとりの思考過程を深掘りし、「なぜこの学習者はこのような誤答に至ったのか」を説明する手がかりがつかめたときの喜びは何事にも代えがたいです。



## 認知科学による情報教育の 実践研究

遠山 紗矢香  
TOHYAMA Sayaka

情報学部 情報科学科 講師



教員ウェブサイト

「人はいかに物事を理解し、賢くなってゆくのか」を明らかにするための実践研究を行っています。学習者が何を考え、どこで躓き、どのような方略を立てていたのか等を遡って検討するために、テスト結果だけでなく発話やメモなどの学習過程データも記録し、量的・質的分析の両方の手法を用いて研究しています。

対象領域は、主としてプログラミングをはじめとする情報教育です。近年ではすべての普通科高校でプログラミングが必修となるなど、情報に関する学習の重みは増えています。私の研究室では、小学生から大学生まで幅広く対象として、プログラミング初學者の誤りにはどのような知識や経験が関連しているのか、協調学習はどのように効果的かなどを調べています。

## 社会的な課題を教材化する 教師のライフストーリー研究

村井 大介  
MURAI Daisuke

教育学部 社会科教育専修 准教授



教員ウェブサイト

社会科と聞くと、どんな学習が思い浮かびますか。社会科は単なる暗記科目ではなく、平和で民主的な国家・社会の形成につながる重要な科目です。教師は、学習指導要領が示す目標をふまえて、それまでの経験をもとに、自分の言葉で社会科を教える意義や方法を考えて授業を実践しています。そのため、教師がどのような願いを持ちながら、その実現に向けてどのような授業を実践してきたのか、教師のライフストーリーを聞き取り、社会事象を教材化するまでの経緯や課題、工夫を明らかにする研究を行っています。語りの内容だけでなく、語るという行為そのものも実践的ならびに社会的意義にも着目しています。

聞き取らなければ語られることのない、教師のライフストーリーを研究することは、教師の専門性の発達過程を明らかにし、さまざまに語られる教育言説を教師の言葉で捉え直すことにつながります。研究成果を共有することが教師の授業づくりに役立ち、社会科が好きなが一人でも増えれば嬉しいです。教育学部の授業でも、学生同士が対話し、教師として実現したい希望を形成できる機会を大切にしています。



## ふとしたきっかけが、未来を変える!

### かとう えりか 加藤 恵利香 さん

理学部 生物地球環境科学科 (現生物科学科)  
(2008年3月卒)

御殿場市立南中学校 教諭

1985年生まれ、静岡県立沼津東高等学校卒  
趣味は旅行。好きな言葉は「飽くなき好奇心」。

② 生じる電流の向きを反対におく方法  
・磁石のS極とN極を動かす  
・磁石を動かす向きを(右→左, 左→右)  
・導線の向きを変える)



### 理学部から教員の道へ

高校の生物の授業で遺伝を学び、私たちの体が暗号一つできていることにとても興味を持ちました。大学で遺伝や遺伝子についてさらに学び、将来は研究職に就きたいと考え、理学部に進学しました。しかし、いざ研究室に入ると自分は研究職ではない仕事をしたいのかもしれないと感じ、自分の進路について悩み始めました。そんなとき、母校で行った教育実習で教員の仕事の面白さに気づき、教員の仕事に就くことを決めました。

### 実験の経験が、授業に生きています

大学の研究室で培った実験の知識は、今も授業で生きています。子どもたちが実験で失敗した時に、誤差の扱い方やなぜ間違えたのか、具体的にアプローチできるのは、私の強みだと思います。また、大学時代のマウスやカエルの解剖の話子どもたちにすると、ものすごく喜んでくれます。



長男と富士山静岡空港のバックヤードツアーに参加

### 子どもたちの成長が私のやりがい

中学校の先生と言うと、ほとんどの方に「大変そう」と言われますが、とてもやりがいを感じています。中学生は心も体も大きく成長する時期で、1年生と3年生ではできることも考え方も大きく変わります。そういった子どもたちの成長を間近で見られますし、単純に子どもたちが可愛いということもやりがいですね。

### ICTで変わる教育現場

現在、学校ではタブレットなどのICTが活発に使われています。理科は天体や天気など実際に見たり体験したりすることが難しいものがありますが、ICTの活用が、視覚での理解を助けてくれます。今後はICTと旧来の板書やノートの記録を使う場面をさらに使い分け、子どもたちの理解度を上げたいと思っています。



### 変化が激しい時代。今こそ挑戦を!

大学4年間はあっという間です。一見、自分に必要ないと思うことにも積極的に挑戦してみてください。ひょんなことから、可能性を広げたり、将来役に立ったりするかもしれません。私自身、必修ではない教職課程を取ったことで人生の選択肢が広がりました。これからの静岡大学には、移り変わりの激しい現代社会に応じた教育を展開し、多様な学生に選ばれる学校であってほしいです。また、zoomを利用した出前講座など大学と中学校が連携していけたらうれしいです。



大学祭の模擬店でおそろいのTシャツを自作しました



加藤さんが学んだ理学部について、くわしくはこちらから →



## 化学の力で、みんなの暮らしを豊かにしたい

### わたなべ あつし 渡邊 篤 さん

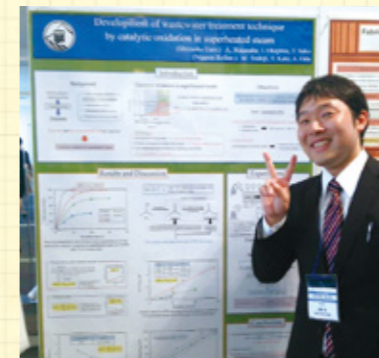
工学部 総合科学技術研究科工学専攻  
(2020年3月卒)

日鉄ケミカル&マテリアル株式会社 勤務 (生産技術職)

1995年生まれ、愛知県立成章高等学校卒  
趣味はツーリングとカメラ。好きな言葉は「待てば海路の日和あり」。

### 実践的に学びたいから、「産業の街」浜松へ

工学部のある浜松市は、産業の街で、大学とも密接に連携し、より実践的に学ぶことができるので静岡大学を選びました。高校時代に化学の不思議さに興味を持ち、実社会で化学を活かしたいと思い、化学バイオ工学科に進学。水蒸気を用いた排水処理に関する研究活動に打ち込みました。「根拠を明確にすること」を意識して先生や共同研究先の方と議論を交わした経験は、今の仕事で大いに役立っています。また、新入生歓迎駅伝大会の運営委員長を務めた際に、学生や先生、大学職員など多方面の方と連携して物事を進める重要性を学びました。



国際学会でポスター発表しました

### スケールの大きさに惹かれて製造設備の仕事に

学生時代に勉強していた「化学工学」の学問を活かせる生産技術職に就きたくて、就職活動をしました。工場見学で実際にスケールの大きな設備を目の当たりにし、製造設備に直接携われるこの仕事を選びました。現在、生産技術職として、ユーティリティ整備や樹脂原料の製造設備を中心に、操業改善や設備検討に取り組んでいます。



学生時代に始めた趣味のバイク

### 現場の「困った」を直接解決できる喜び

所属する製造部技術室は、安全面・環境面・防災面を中心に現場が困っていることをすくい上げて、技術的な側面で解決していく部署です。課題解決に向けて直接アプローチできることにやりがいを感じています。今後は生産プロセスを開発するポジションにも挑戦し、モノづくりの一連の流れを体系的に経験しながら多方面で活躍できる技術者を目指したいです。



設備の概要をスケッチし、設備改造を検討します

### 研究活動を楽しんでほしい

理系の学生さんには、ぜひ研究活動に没頭してほしいです。学生時代の研究活動で培った考え方や経験した苦労はどの職種に就いても必ず活かされると思います。また、時間やお金などのコストを気にせず研究ができるのは学生の特権です。自身の関心のある研究を存分に楽しんでほしいです。これからの静岡大学には、学生や先生が集中して学問に取り組むことができる環境づくりと画期的な技術が生まれることを期待しています。



渡邊さんが学んだ工学部、総合科学技術研究科工学専攻について、くわしくはこちらから →

# 「どんな活動しているの？」静大の部活・サークルに聞きました！

静大には現在131団体の部活動・サークル活動があります。規模がとても小さい、活動がユニーク、地域に貢献しているなど広報学生委員会が独自にチョイスしてご紹介します。



このほかにもたくさんありますので、こちらをご覧ください。  
<https://www.shizuoka.ac.jp/education/campuslife/club/>

「二打入魂」  
 サークル名は龍(特別優れた)と韻律(韻々響き、趣のある)が由来です。1994年に発足し、代々受け継がれてきたオリジナル曲の数々を週2回練習し、年に一度主催する演奏会をはじめ、イベントなどで演奏しています。

## 和太鼓サークル 龍韻太鼓



国際交流や地域貢献も楽しんでいきます！

日本の伝統文化を体験できること、地元のお祭りなど地域の活性化に貢献できることなどが魅力です。留学生の方にも興味を持っていただき、国際色豊かなサークルとなっています。和太鼓や楽器が未経験でも、バチの持ち方など基礎からゆったり教えていますので、気軽に遊びに来てください。演奏会の依頼、スポンサーとして応援して下さる方も大歓迎です！



## 目標は「鳥人間コンテスト」出場

我々が製作している「人カプロペラ機」は全長10m弱、全幅30mと、かなりのビッグサイズです！1つの機体を完成させるために、5つの班に分かれて日々機体製作を行い、夏になれば機体を実際に動かして訓練を行っています。

組み立てた機体が動いたときの喜びを、ぜひ一緒に！  
 製作した機体を実際に組み立てた時の達成感、機体が無事に動いた時のやりがいは大きく、それまでの努力が実った気がして、うれしいです。部員が多いため、いろんな人と関わる事ができるのも楽しいことのひとつです。定期的にイベントにも参加しています。ぜひ、一緒に「鳥人間コンテスト」出場を目指しましょう。活動への応援もよろしくお願いします。



# ユニークな活動を紹介



# 部活動・サークル !REPORT!

## 静大ならではのユニークな活動を紹介

小型フォーミュラ車両を作っています  
 学生だけで小型フォーミュラ車両の企画設計・製作・試験を行い、毎年9月にエコパ(袋井市)で行われる学生フォーミュラ日本大会に参戦しています。チームマネジメントや資金調達などを行い、多角的なものづくりの経験を積んでいます。

2022年度は車両のEV化に挑戦しました。EVならではの電気系の設計製作に加え、安全への考慮やレギュレーション対応が今までと違うことばかりでも大変でしたが、みんなで乗り越えてきました。手を加えるごとに車両の性能が向上していくのが喜びです。この活動を支えてくださるスポンサーを募集しています！  
 (shizuokauniversity@gmail.com)

## Shizuoka University Motors (SUM)



2024年はEV部門で優勝を目指します！

静岡みかんの魅力発信と消費量UPに貢献するため、みかん1個分の皮からピールアートを創って産業フェアなどのイベントに参加したり、藤枝市のフィールドでみかん収穫のお手伝いをしたりしています。



食べるだけじゃない！  
 みかんの皮でアートを楽しむ

普段は捨てられてしまうみかんの皮を再利用し、小さい子どもでも簡単にできるピールアートを考えています。練習すれば細かいものができるようになります。みかんが好きなら、もっと知りたい人はもちろん、静岡っぽいことをしたい人、新しいことをしたい人など、学年や学部問わず大歓迎です！一緒に、みかんの魅力を再発見しませんか？

## 棚田研究会

千櫃の棚田の美しい景観を守りたい  
 菊川市のNPO法人と協力して草刈りや田んぼの補修などの保全活動を行い、棚田の美しい景観を守る活動を行っています。また、田植えや稲刈りのインストラクターとしてイベントを支援する活動も行っています。

ここでしかできない活動がたくさんあります！



田んぼの補修から稲刈りまでの一連の流れを通して、自分たちの頑張りで収穫量が変わってくることにやりがいを感じます。蕎麦打ちやたい焼き作りなど普段の生活では体験できない活動がたくさんあって楽しいです。なかなか味わうことができない自然と生き物に囲まれた環境で、まったり農業を楽しんでみませんか？体験入部も随時受付中です！

## ヒコキ部

# 農学部生物資源科学科 園芸イノベーション学研究室

私たちの研究室は、園芸学の研究手法をベースに地域の特性（文化・風土）を活用しコミュニティを元気にする研究を行っています。社会に新たな価値を創造することを「イノベーション」ととらえ、技術だけに頼るのではない、「人」をベースとした活動を行っています！



研究室では学生一人一人が「プロジェクトリーダー」です。もちろん研究室メンバーのサポートも受けますが、責任者は「私」。地域に設けたフィールドに積極的に足を運び、地域の方々と共に実践的な活動に取り組めます。

学部生：2名  
修士課程：5名  
博士課程：2名



松本和浩 教授

学生たちや地域の皆さんが持つ、多様な夢や野望の実現を応援するのが私の役割かな？と思っています。くだもの、野菜、花など様々な園芸作物がありますが、良いものはいずれも「愛おしさ」を感じられるものでしょう。どのように愛おしさを付与するのか？これが私の永遠の研究テーマです！

## こんな研究をしています！

- ・レンジでチンするとすぐにジャムになるリンゴの開発研究
- ・静岡県で手軽に青パイアを栽培できるようにするための研究
- ・ベトナムのカカオ農園を近代化するための栽培研究
- ・化学肥料を与えずによりリンゴを栽培するための研究
- ・途上国でも利用できるドライアイスを使ったイチゴの長期貯蔵法の開発
- ・窒素固定する水生シダを活用した堆肥製造法に関する研究
- ・在来ウメのブランド化のための着果促進、品質向上に関する研究
- ・聞き書きを通じた庭の果樹の活用法・地域活性化法の開発研究
- ・ノハナショウブの自生地の保全と活用法に関する研究



## いろんな場所で活動しています！

静岡県（南伊豆、松崎、熱海、富士宮、藤枝、吉田、島田、川根、浜松）  
青森県、沖縄県、愛知県、鳥取県、ベトナム

## 公開講座もやっています！

地域の皆さんを対象に、くだもの多様性の紹介する勉強会を行っています。私たちの研究活動を知ってもらうことにより、対象作物の栽培や消費の拡大を目指します！

## 卒業後の進路

- ・公務員（農業職・研究職）
- ・JA経済連
- ・農機具メーカー
- ・教育職
- ・食品製造業 など



私たちも  
発表します！



## 実験



くだもの品質調査法は学生必須の習得技術。協働する地域の皆さんのニーズやメカニズム解明・論文発表の必要性に応じて、細胞壁の分析、土壌分析、植物の栽培法など各学生のテーマに応じて様々な実験手法も学びます。



## 畑での勉強



藤枝に設置した研究室の専用圃場で、地域の様々な人に助けをいただきながら、パーマカルチャーの「循環」の理論に基づいた環境にやさしい農業に挑戦しています。土づくりから収穫まで、たくさん経験して、たくさん育てて、食べて、飲んで…。貴重な体験です。

## 研究室で楽しいこと



## フィールド活動

自分の研究フィールドはもちろん、他の研究室メンバーのフィールドも積極的に訪れます！様々な地域でたくさんの人々に出会い、対話や活動からたくさんの刺激を受け、おいしい食べ物もたくさん食べて大きく成長していています！



趣味は旅行。学生時代から日本各地を訪れているコンピッチャノンさん

### Vol.4

## 実践的な英語を学び、グローバルに活躍したい

コンピッチャノン ピアンナパ (タイ出身)  
人文社会科学部法学科 (2022年卒業)  
2022年10月より静岡ガス株式会社 勤務

高校3年生の時に、チェンマイで行われた日本留学フェアに参加して、静岡大学への留学を決めました。「日本で就職したいという夢が、ABPなら叶えられるかも」と思ったからです。入学して半年間は日本語の基礎を学ぶプログラムがあり、言葉の心配もありませんでした。留学生も多いので、日本人だけでなく、いろいろな国の友達ができました。

将来、グローバルに活躍できるよう、

英語を猛勉強し、TOEICが790点から960点にアップ。外国語の本を一人一冊読み、プレゼンしてディベートをする国際関係論のゼミにも参加し、英語力を高めました。

ABPのインターンシップを機に、昨年10月、静岡県内の企業に就職し、社員サポートセンターで働いています。将来はタイに関連したプロジェクトに携わることができれば嬉しいです。



チェンマイ料理といえば、「カオソイ」



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様への感謝を込めて、活動をご報告します。



静岡大学では、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題に多面的・戦略的にアプローチしています。今回は、日本でも有数の木製家具産地である静岡ならではの身近にある木(樹)を活かす取り組みをご紹介します。



## 地域の身近な木を活用して家具づくりと森づくりに挑戦 「みぢかな木の家具・モノコトづくり研究所」×「ヨキカグ」プロジェクト

人文社会科学部経済学科 横田 宏樹 准教授

2022年10月に森林や木について分野を超えて研究するための場として「みぢかな木の家具・モノコトづくり研究所」を学内で立ち上げ、静岡市内の林業家・製材・家具職人・デザイナーなどが家具づくりを通して身近な木の価値や魅力を創り出そうと活動する「ヨキカグ」プロジェクトとタッグを



切り株と写真を撮るなど、家具になるまでのストーリーを大事にしています。

組み、多様な森づくりに向けた木の利用のあり方について実践的に研究しています。

森づくりに関する先駆種と言われる木の役割に注目して、天竜演習林に生ずるカラスザンショウやネムノキなどで家具を試作り、学内でキャラバン展示を行いました。木や家具というモノを通して、そこに込められた思いや考えといったコトを伝え、森林と人間が再び多様に



演習林スタッフと一緒に木の搬出作業をしました。



1月に人文社会科学部で企画展示をしました。



ヨキカグInstagram

## 静岡大学未来創成基金寄附者芳名一覧

教育・研究・社会連携を推進する財政基盤を強化するため、平成24年度に創設した基金です。ご寄附をいただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

### 〔個人〕

Table listing names of individuals who donated to the fund, organized in columns.

### 〔法人等〕

Table listing names of corporations and organizations that donated to the fund.

※ご芳名は、原則令和4年8月1日から令和5年1月31日までの間に寄附いただき、公開についてご承諾いただきました方について掲載しております。なお一部、クレジット等ご入金日により、前掲掲載分に間に合わなかった寄附者の方々もあわせて掲載しております。ご入金が未確認の皆様については、今後、ご入金の確認ができ次第、広報誌に掲載させていただきます。



## 校友会組織「静岡大学 ゆかりの会」が発足しました。会員募集中です！

在学生・保護者をはじめ、卒業生・企業など静岡大学と「縁(ゆかり)」のある方をつなぐ協力・応援ネットワークです。会員同士もつなぎ、未来創成の輪を広げていきます。

対象 どなたでも入会できます。

活動内容 静岡大学内の最新情報を集約し、メールマガジンで配信します。

- 最新の研究成果
企業や地域との連携
学生や教職員の活躍
セミナーやイベントのご案内

静大生の皆様も是非ご登録ください！



会員登録はこちらから(メールマガジン登録)

今後とも温かいご支援をお願いいたします

未来創成基金へのご寄附は、郵便振替やインターネットからのお申込み(クレジットカード・コンビニ決済等)をご利用いただけます。くわしくはウェブサイトをご覧ください。

静岡大学未来創成基金ウェブサイト

https://www.shizuoka.ac.jp/fund/

静岡大学広報・基金課 基金係 / 電話:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp

